

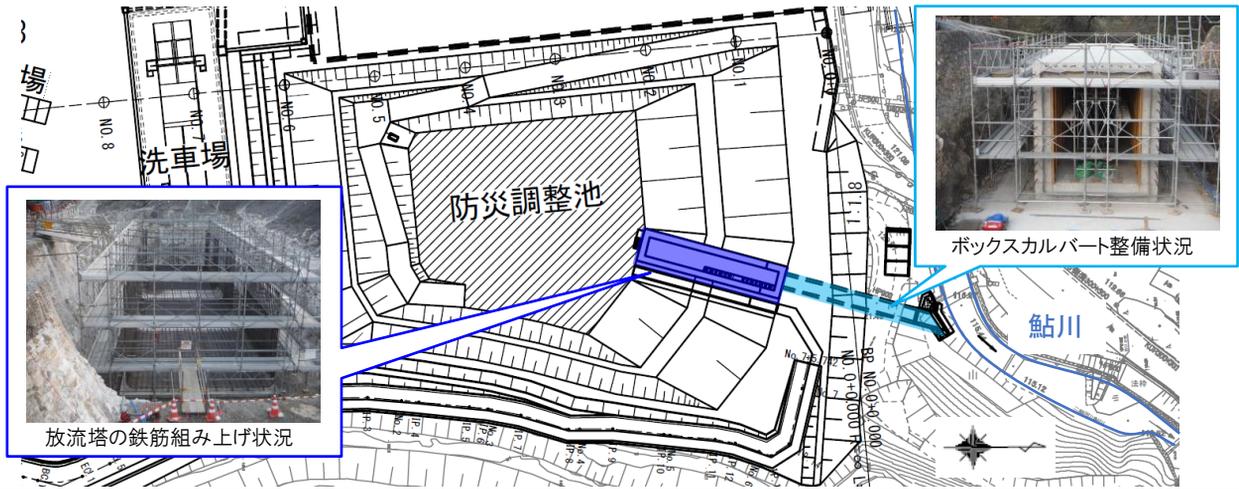
年の暮れを迎え、街の様子もあわただしさが感じられるようになりました。冬至を過ぎ、日没が早い時期です。処分場の工事現場では、より一層の安全を心掛け、工事を進めております。現在、盛土工事と並行して、防災調整池の放流塔の整備が進められておりますので、その様子をお知らせいたします。



防災調整池の放流塔の整備状況

※ゴミに触れた雨水は浸出水処理施設で浄化処理した後に下水道へ放流

処分場北側の防災調整池では、鮎川への雨水の放流量を調節する放流塔を整備しています。雨水の流れとしては、処分場埋立地の外側に降ったゴミに触れていない雨水は、まず、防災調整池に集まり、その後、放流塔で流量の調整を行い、放流塔出口のボックスカルバートを通して鮎川へ放流されます。



ボックスカルバートってなに？



あんきよ

カルバートとは暗渠（地中に埋められた水路のようなもの）のことです。ボックスカルバートは、コンクリート製の構造物で箱型をしており、水路以外に道路などにも使われています。

【お問い合わせについて】

担当：一般財団法人 茨城県環境保全事業団 新最終処分場整備日立事務所
電話：0294-33-8731 E-mail: seibi@ef-kasama.or.jp
その他：工事に関するお知らせは、茨城県環境保全事業団の
ホームページ(<https://ef-kasama.or.jp/newfacility/info>)
又は二次元コードからご確認ください。



諏訪小学校の下校時間帯の見守り活動を開始

※ 登校時間帯の工事用車両の通過はありません。

11月27日から、諏訪小学校の下校時間帯の児童の見守り活動を開始いたしました。

事業団が委託した警備会社により、諏訪小下の横断歩道や梅林通り沿いでの見守り活動を実施し、児童の安全確保を徹底しながら、令和8年度末の処分場供用開始に向けて工事を進めてまいります。



諏訪小下の横断歩道

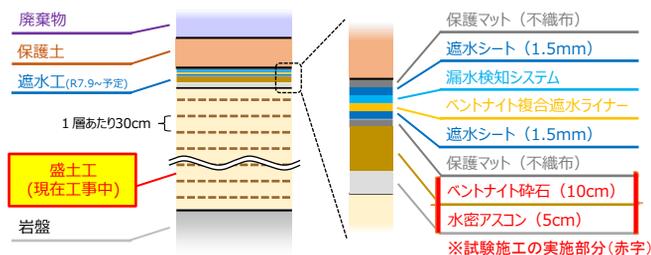


梅林通り沿い

処分場埋立地底部の遮水構造の試験施工を実施

処分場埋立地底部には、廃棄物に触れた雨水が地下に浸透しないように遮水構造を整備します。12月3日、施工管理ワーキンググループの座長である早稲田大学の小峯教授の立合いのもと、遮水構造のうち水密アスファルトコンクリートとベントナイト砕石の部分についての試験施工を実施し、施工方法や品質管理方法の助言をいただきました。

最終処分場の埋立地底部の概略構造



処分場建設工事中の環境モニタリング

工事中の環境モニタリングの結果

● 水質(10月測定)

工事現場からの雨水排水を測定したところ、工事の影響はほとんどなく、すべての測定項目で基準未満でした。

● 地下水(10月測定)

処分場周辺に設置しているモニタリング井戸の水質を測定したところ、工事の影響はほとんどないことを確認しました。



処分場建設工事中の環境モニタリング実施地点

環境モニタリングの詳細な結果は、事業団のホームページで公開しています。



処分場建設工事中の環境モニタリング結果

編集記

令和6年もいよいよ残りわずかとなりました。本誌が皆さまのお手元に届く時には、新しい年が始まっていることと思います。令和7年も皆さまの安全、安心を第一に処分場の建設工事を進めてまいります。

広報誌でも引き続き、工事現場の状況や作業内容などを掲載してまいります。令和7年も、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

